作業効率化 実習楽しく

北宇和高三間分校生

「大変な土入れ作業、どうにかならんかな」―。実習で花や野菜の苗を育てている宇和島市三間町戸雁の北宇和高校三間分校農業機械科の生徒がこのほど、実習に欠かせない作業を効率化する装置を製作した。苗作りに使う大量の培土を機械に移すときに使用。これまでの手作業に比べ労力が大幅に減った。生徒らは試行錯誤の末に完成させた装置を喜んで活用している。

実習では苗を育てるポリポットに培土を入れるのに自動式の「ポット土入れ機」を利用している。培土を機械に供給するのが重労働で、生徒が従来は約500キロ入りの袋からスコップを使って移していた。体力を消耗するため、担当になりたくないとぼやく生徒が多かったという。

生徒の悩みを解決しようと立ち上がったのは2020年度の3年生。まずは傾斜のついた台を製作し、載せた袋から土を滑らせて機械に入れるシューター式の装置を試作した。しかし土をうまく入れるための位置調整が難しいといった課題が浮上。21年度は2、3年生が引き継ぎ、改良型の製作に取り組んだ。

改良型は高さ、幅、奥行きともに約1・1メートルの鉄製。シューター式から変更し、袋の受け口をすり鉢状にして中央部分を開け、袋の底面から直下に投入できるよう工夫した。キャスターを装備し、袋を載せた状態での移動も容易になった。

設計から鉄材の加工、溶接まで生徒が手掛け、自ら悩みを解決した。製作に携わった2年の山田健介さん(17)は「使い勝手のよい高さを検討するとともに、各部材がきちんと平行になっているかなどに注意し、完璧に仕上げられた」と胸を張り「後輩たちには楽に、スピーディーに作業してもらいたい」と話している。

（長尾翠）

設計から手掛けた装置を使って培土を機械(下)に入れる三間分校の生徒

育苗培土の供給台製作 移動も楽々

愛媛新聞　９面
令和３年９月４日付
掲載許可番号ｄ２０２１０９０６－１